

ドッグランがある愛犬の家

「愛犬の終の棲家」として建てられた田中規雄様邸。4匹いる高齢の愛犬たちと新しい家で快適な余生を一緒に過ごしたいと、「ペットとの暮らし」を提唱する(有)キーポイントホームに依頼した。竣工したのは今年(2021年)の2月。その3ヶ月後に引越越したのは、家の南側に造ったドッグラン(8坪)の完成を待ったからだ。玄関前に設けられた専用の足洗い場も、ヒバ製の「田中」の表札の下の郵便ポストに描かれたダックスフンドのイラストも、いかにも「愛犬の家」。取材の間中、ちっとも吠えない行儀の良さが「木の家」の快適さを暗黙のうちに語っていた。

「ニオイがこもらないスギと漆喰の相乗効果」
「ニオイが全くしなくなりました」
以前住んでいた家との違いを、ご主人は開口一番そう話す。「前は、玄関に入ると、わんこのオシッコのニオイがしてい

さらにスギの持つ調湿・抗菌効果も作用し、べたつかず、さらっとした無垢材の足触りが心地よい。冬も裸足に温かく、それがなにより健康にいい。「それと、明らかに違うことが



ユーザー訪問

田中 規雄 様邸

DATA

青森市羽白沢田

2021年2月竣工(同年5月ドッグラン完成)

■延べ床面積 / 32.12坪(106.4㎡)

■使用青森県産材 / 《構造材》ヒバ(土台)《内装材》スギ無垢材(床、壁、天井)、スギ集成材(建具)、タモ集成材(階段)。



家の南側に完成したドッグランでは愛犬たちが自由に駆け回る

ただのだけど、今は全然「しませんね」と驚きの表情だ。

その違いの「鍵」は、室内の造りにある。つい3ヶ月前まで暮らしていた築31年の家は、床が合板フロアだったのに対し、新しい家は、無垢のスギ板に替わった。また、ビニールクロス貼りだった壁は、陸奥湾・平内産のホタテ貝殻入り漆喰

塗りに、天井にはスギの羽目板が張られた。共に青森県産材であるこの「スギ」と「漆喰」の消臭効果に加え、テレビ台の背後に張られたセラミック製ボードの消臭効果も相乗し、ニオイのこもらない清浄な空間をつくり出した。



天井と床に張られた「スギ」と、壁に塗られたホタテ貝殻入りの「漆喰」の消臭効果によって、ニオイのこもらない清浄な空間とったりリビング

もう一つあるんです」とご主人が興奮の口ぶりで話す。

ご主人の話 オシッコなんです。わんこのオシッコの回数。以前だと、夜中の2時とか4時に2回起きてオシッコをさせていたんですけど、今は1回だけです。1回させると、もうあとは朝までぐっすりなんです。おかげでこつちも熟睡できるから大助かりですよ。わんこたちも「木」に囲まれて気持ちがいいんでしょね。

阿保勝之社長の話 リビングの掃き出し窓に「障子を建てたい」というのが、ご主人の要望でした。洋風の中に和風をどう



郵便ポストに描かれたダックスフンドのイラスト



テレビ台の背後に張られた消臭効果のあるセラミック製ボード

マッチさせるか、そこがポイントになりました。

掃き出し窓は幅が1間半(約273cm)。そこに障子を2枚建てました。その窓から愛犬が出入りするので、紙の代わりに破れないナイロン製の障子を貼りましたが、いずれにせよ窓が障子で塞がれてしまうと室内が暗くなります。そこで陽光を採り入れる工夫をしました。

まず、障子上部の天井です。そこは、階段を上がった2階の床なんですけど、その床板を、スノコ状に敷いて、隙間から下に光がこぼれるようにしましたのです。わずかな光でも程良い明かりになります。

次に、窓の右隣の、テレビが置いてある壁面の造りにも工夫を施しました。階段と接しているその壁面を、天井まで覆ってしまわず、上部を40cmほど下げ、欄間をくり抜いたように、あげたのです。そうすることによって、階段越しに、2階の窓からの明かりも射し込むよう

にしました。透かし階段にしたのも明かりが入りやすくするためです。

設計どおりに、天井の隙間と、くり抜いた壁面から入り込む間接的な光で、暗さは解消しましたが、もう一つ、別の効果をもたらしてくれました。程良い明かるさが、スギの色合いを、いつそう柔らかく室内にしつくり溶け込ませる、という効果です。想っていた以上に木肌の温かみある良さを引き出してくれました。そのこともまた愛犬も熟睡できる快適な室内環境につながっているのです。

障子の作りに職人の技 驚き!! 建具屋が同級生

奥様の話 主人は「木の家」を建てたいって言っていましたけど、正直なところ、わたしは「木」にはあまり関心がありませんでした。関心がない、というよりも、「木の家」というと口グハウスのイメージと結び付いたんです。家の外も中も丸太の



造作に4日かかったという羽目板を張り合わせた柱

イメージで、圧迫感がありました。それで、主人に弘前にあるキーポイントホームの展示場を見に行こうと声をかけられたときも、いまいち気乗りはしなかつたんですけど、展示場の中に「ドッグカフェ」がオープンしたと聞いて、それならと行ってみることにしたんです。展示場のリビングをドッグカフェにリフォームしたというのですから、キーポイントホームの社長さんは愛犬家に違いありません。そうなら一般の工務店とは

違う、犬のことをも配慮した家づくりをしているはずですよ。展示場は、イメージとは全然違っていました。室内の床や壁や天井にも「木」は張ってあるけど、配分を計算して使っているのでしょう、洗練されたセンスが感じられました。木の色合いが良かったですね。青森県産のスギなんだそうです。柔らかさそうで落ち着きました。中でも惹かれたのは、障子でした。木を細かく組んだ、ていねいな作り。職人の手作りならではの味

わいが伝わってきました。阿保さんとはそのときに初めてお会いしました。いろいろ伺ったお話の中で印象に残ったのは、「地域」です。地域に役立つことをモットーに家づくりをしているということ。使う木は地元の木。大工や建具など職人も皆地元の人。「地域」に徹していますよね。それに、住む人の老後までを見据えた家づくりをしているということ。断熱・気密性の高い家は、老後もランニングコストを抑えた生活ができる。いくら暖かく、涼しくても、光熱費がかかるのでは快適な生活とは言えない。高性能で、ランニングコスト

が低く、しかも潤いあるペットとの暮らしこそが健康長寿につながる。——お話を聞きながら、熱心だな、と思いましたね。



リビングの掃き出し窓の外にはドッグランが広がる



スノコ状に敷いて、隙間から下に光がこぼれるようにした2階の床板



冬でも裸足に温かく、調湿・抗菌効果もある無垢の杉が全室の床一面に張られている



任せられる人でした。

阿保社長の話 今、奥様から展示場の建具の話がありましたが、その建具を作った建具屋が、田中様邸の障子を作ったんです。

奥様の話 びっくりしましたよ。建具屋の職人は中学のときの同級生だったんです。わたし、昔は弘前に住んでいましたけど、まさか中学のクラスで一緒だった人が、巡り巡ってわが家の障子を作ってくれることになるなんて……。

阿保社長の話 その建具屋の「腕が、田中様邸の掃き出し窓の障子にも発揮されています。まず、障子が大きいわりには軽く、力を入れなくてもすっと開きます。そこに、軽いスギを使って「強く」作る職人の技量が裏打ちされているのです。

1 間半(約273cm)の窓に2枚ですから、1枚の障子の幅は約136cm。大きいから、たわまないように丈夫さが求められますが、といって枠の框(見

付)を太くしすぎると見た目に「こつこつ」なり、重くもなります。そこで框の幅を42mm、厚みも36mmに抑え、^{たて}縦の組子を、間隔を寄せて細かく入れることで強度を持たせたのです。樹齢何

十年もの太いスギから挽いた目の詰まったスギには強さがあります。そういう木を材に選ぶ職人の目が求められるし、かつ仕上げに美しさを与えられるのが「職人技」なんですね。

「大工泣かせ」の**手間暇** 柱の造作に二人で4日
「この柱を見てください」
阿保社長が立っていつて、テレビが置かれた壁面の左端に



洗面コーナーの向こうに食卓テーブルの椅子が見える。その隣がキッチンで、対面式のリビング。その続きの主寝室を出ると洗面コーナーの前に、ぐるりと回れる回遊動線の勝手がいい



2階の洋室も床に天井にスギを張った「木の空間」。窓の障子を開けると、1階の吹き抜けになった部屋とつながっている

立つ柱を指した。柱の太さに合わせて切りそろえたスギの羽目板を、段々に張って化粧を施してある。

「これを作るのに、ひとりの大工が4日もかかったんです。泣いていましたよ」と自慢げな阿保社長。羽目板を張り合わせたそれぞれの角の線が、定規で引いたように一直線に通っていないければならない。大工の技量が問われる造作だ。張る前に、スギの色合いや木目を合わせ、いったん張っても気に食わなければ何回もやり直しし、4日間もかかってようやく仕上がったのだとか。大工に「泣きが入る」ほどの手間暇を要したのだ。

柱を現わさずに、大壁にしてクロスを貼ってしまえば、部屋にはなるけど、手間暇を省いた造りの空間からは、快適さも味わいも得られない——それがキーポイントホームの家づくり。そのこだわりが、この柱一本の造りに凝縮されている。

ご主人の話 私、その柱のこ

とは阿保さんから説明されて分かりましたよ。なるほど、柱に板を一枚一枚張っていくわけだから、手間ですよ。聞いて大工の苦労を知った分、味わいが深まりました。

——取材が始まって1時間が過ぎましたが、わんちゃんたち、全然吠えませんが、静かなものです。しつけがいいんですね。

奥様の話 4匹のうち3匹が親子なんです。もう1匹はいとこ。全部メスです。一番年上は母親で、名前がチビ。16才だから人間でいうと80歳くらいです。ココアとミルクが子供で、共

に15才。人間だと77歳くらい。一番下がいとこのクッキーで12才。60歳くらいですね。

ご主人の話 オシッコしたくなる時、そこ（リビングの掃き出し窓）の障子をガリガリして教えるんですよ。窓を開けて出ると、ゆるやかなスロープになっていて、その先がドッグランです。人工芝の下には、浸透するように砂利を敷いてあります。そこで1回オシッコをさせれば、あとは朝まで起きなくてもよくなったので体が楽です。おかげさまで人もペットも健康で長生きできそうですよ。



取材の様子を静かに見守るように全然吠えなかった4匹の愛犬たち



「あおもり産・木の家」常設展示場&ドッグカフェ



有限会社 **キーポイントホーム**

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail: staff@ki-pointhome.com